

### 2ND LAYER (RACING/レーシング)

#### ●ホルメンコールのワックス選定 (ホルメンコールワックスの選定ポイント)

ホルメンコールワックス選定の際、基本となるのは雪温と気温ですが、雪質と湿度もとくに重要なポイントとなります。数々の実績や栄光をベースに、最高のスピードを追求するワックス・コーティングテクノロジーから生まれたワックス「SYNTEC FF・FF2」は、あらゆる雪質、湿度に対応。(レーシングワックスの選定ポイント) 1: スタートダッシュ 2: 持続性 3: 滑走性 レーシングワックス選定の際、この3つがとくに大切です。ただし、この3つの重要度は種目によって異なります。ワックスはスタートダッシュと緩斜面の滑走性が最重要ポイントとなります。※技術系種目 (SL、GSL) はスタートダッシュが重要です。※高速系種目 (SG、DH) はスキー操作によって加速することも可能なので、むしろ緩斜面における滑走性、加速性のほうが重要です。また、とくに日本の雪質の特徴も把握しておくことも必要です。(日本の雪質の特徴) 1: 結晶が全体的に細かく柔らかい 2: 湿度が多い 3: 引っ掛かりのある結晶 (湿度の関係) 4: 春先の中国からの黄砂・PM2.5以上のものを踏まえて、大会前には、気温、雪温、湿度を計測し、雪質をチェックします。ワックス選定で重要なことは、緩斜面の入り口〜出口でチェック・計測したデータがワックス選定の基準となることです。湿度計がない場合、目安としては雪を握って雪玉が出来れば湿度が50%以上であると判断してください。

#### ※【ホットワックスingの使用法】

1 ブロンスまたは、スチールブラシで滑走面に残っているワックスや汚れをクリーニングして下さい。

2 ケアフリースで拭き取ります。

3 スキーのサイドをマスキングテープで保護すると、ワックスがピンディングに付着したり、プレートの隙間に入り込むのを防ぎます。

4 ワックスに合わせ温度を設定します。※環境によって使用ワックスの溶解温度が変わります。

5 雪質に合わせたレース用ワックスをワックスingをします。

6 ワックスingをします。

6 ワックスingをします。

7 サイドに垂れたワックスを冷え固まる前にスクレイピングします。

8 冷えたらスクレイピングします。

9 ブロンスブラシでブラッシングします。

10 馬毛ブラシ等でブラッシングします。

11 マイクロフィニッシュスチールで仕上げます。

12 ケアフリースで仕上げます。

※雪質によってブラシを替える場合もあります。

#### ※【リキッドワックスingの使用法】

1 ブロンス又は、スチールブラシで滑走面に残っているワックスや汚れをクリーニングして下さい。

2 ケアフリースで拭き取ります。

3 シンテックFF2リキッドを良く振り攪拌します。

4 ケアフリースまたは、かためのスポンジにシンテックFF2リキッドを垂らします。

5 滑走面に塗り込みます。

6 乾く前にフィニッシュコルクのフェルト部分で塗り込みます。

7 馬毛ブラシでブラッシングします。

8 マイクロフィニッシュスチールで仕上げます。

9 更にケアフリースで仕上げます。

### RACING FINISH (FF1 リキッドで仕上げる)

#### ●FF1 を使用して仕上げるにより、ターン後半の滑走性に伸びが生まれ、加速性がアップします。

HOLMENKOL は、フッ素フリー素材の中から、良い素材を貪欲に探し求め選りすぐったものを抽出、精製し手間をかけ製造し雪質・ベース面にマッチするレーシングフィニッシュを誕生させました。ワールドカップのサービスマンから大いに絶賛され、ここにもHOLMENKOLの豊富な経験と実績、信頼関係が現れています。全ての競技においては、スタートダッシュと緩斜面での滑走性及び持続性が大変重要となります。「FF1」は、あらゆる雪質に対応し持続性も兼ね備えた画期的な製品です。ベース面及び雪面へのコンタクト面積が非常に大きく、高い付着性、撥水性、防汚性等の効果を発揮し、ゴールに至るまでハイスピードを維持します。また、「FF1」は、スキーやスノーボードの滑走面やストラクチャーが冷えた状態でも、うまく適応します。

1 ケアフリースまたは、かためのスポンジにレーシングフィニッシュFF1を垂らします。

2 滑走面にムラなく、塗り込みます。

3 乾く前に、フィニッシュコルクのフェルト部分で塗り込みます。

4 ベース用ブラシでブラッシングします。

5 マイクロフィニッシュスチールでブラッシングします。

6 ケアフリースで仕上げます。